



藤田医科大学ばんだね病院 循環器内科 教授就任のご挨拶

藤田医科大学ばんだね病院 循環器内科 教授

祖父江 嘉洋 (23回生)

このたび2026年4月1日付で、藤田医科大学ばんだね病院循環器内科教授を拝命いたしました。就任にあたり、藤医会会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。また、これまでご指導、ご支援を賜りました諸先生方、同門の先生方、そして多くの医療スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

私は2000年に藤田保健衛生大学医学部を卒業後、名古屋記念病院にて初期研修を行い、その後、藤田保健衛生大学循環器内科(菱田仁士教授)に入局いたしました。4年目より、現在のばんだね病院循環器内科教授である渡邊英一先生のご指導のもと、不整脈診療を中心に、循環器疾患の診療、研究、教育に携わってまいりました。10年にわたり藤田医科大学で研鑽を積み、2015年からは2年間、カナダ・モントリオール心臓研究所へ留学し、Stanley Nattel先生のもとで心房細動に関する基礎研究に従事しました。

留学生活は決して平坦ではありませんでした。臨床中心で過ごしてきた自分にとって、英語環境の中で基礎研究を一から学ぶことは大きな挑戦でした。しかし、多くの仲間や家族に支えられながら研究に没頭した2年間は、医師としてだけでなく、一人の人間としても大きく成長でき、最も苦しく、同時に最も貴重な時間でした。帰国後は、「藤田から世界へ」という思いを、若い世代にも伝えていきたいと考えるようになりました。



2年間、基礎研究のみの生活を送ったことで、臨床へ復帰するにあたり、これまで以上に多くの診療経験を積める環境を求め、国内有数の症例数を有する岐阜ハートセンターで勤務する機会をいただきました。岐阜ハートセンターでの3年間は、冠動脈インターベンション、不整脈、心不全など数多くの循環器診療に携わり、特にカテーテル治療において非常に多

くの症例経験を積むことができ、現在の診療の礎となっています。

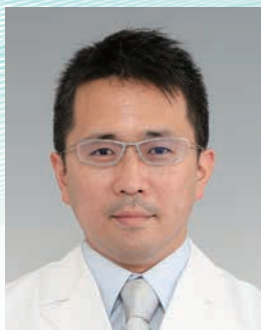
その後、ばんだね病院循環器内科へ赴任し、その診療経験を生かして新たに不整脈アブレーション治療を立ち上げました。現在は心房細動アブレーションを中心に、患者さんに低侵襲で安全な治療を提供できる体制づくりに努めています。近年、不整脈治療は急速に進歩しており、パルスフィールドアブレーション(PFA)など新しい治療技術も登場しています。ばんだね病院においても、地域の患者さんに高度な不整脈治療を提供できる施設として、更なる発展を目指しています。

また近年は、AIを用いた心電図解析や心臓CT画像解析など、循環器領域における新しい医療技術の研究にも取り組んでいます。AI技術は循環器診療に大きな変革をもたらしつつあります。一方で、どれほど技術が進歩しても、患者さん一人ひとりに寄り添う医療の本質は変わらないと感じています。最先端医療と温かい地域医療の両立を目指し、ばんだね病院らしい循環器診療を発展させていきたいと考えております。

大学病院の役割は、診療のみならず、教育と研究にあります。次世代を担う若い先生方に、臨床の面白さ、研究の楽しさ、そして海外へ挑戦する大切さを伝えていきたいと思っています。私自身、多くの先生方との出会いに育てていただきました。今後は、自分が受けてきた恩を次の世代へつなげていくことが使命であると感じています。

まだまだ微力ではございますが、ばんだね病院循環器内科、そして藤田医科大学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。藤医会同窓の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。





病院教授を拝命して

岡崎医療センター 麻酔科 教授

栗山 直英 (27回生)

この度、2026年4月1日付をもちまして藤田医科大学 岡崎医療センター麻酔科の病院教授を拝命いたしました。就任にあたり藤医会会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は1998年に藤田保健衛生大学に入学しました。2004年に卒業後、愛知厚生連海南病院にて初期研修を行いました。その当時は、呼吸器内科医であった父の影響もあり、呼吸器内科、総合診療科への進路を考えておりました。研修先の麻酔科は、術中麻酔管理だけではなく集中治療医としても診療活動をしており、重症呼吸不全などの全身管理を学ぶために後期研修先として海南病院 麻酔科を選びました。麻酔科医として2年目の2008年3月、海南病院の麻酔科部長であった西田修先生が藤田保健衛生大学 麻酔・侵襲制御医学講座の初代主任教授に就任された際に、中村智之先生(現麻酔・集中治療医学講座主任教授)とともに3人で藤田保健衛生大学に参りました。術中麻酔管理業務から始まり、2009年6月にはICUでの治療に携うようになりました。敗血症、急性呼吸不全、急性血液浄化療法などの臨床研究を行い、2014年からは米国ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院麻酔科に海外留学を行いました。重症熱傷によるミトコンドリア機能障害に対して、コエンザイムQ10補充療法を行う臨床研究と敗血症による好中球遊走能障害メカニズムの解明の基礎研究を行いました。帰国した2016年10月から医局長となり、後進の指導、医局の運営等に携わってまいりました。研究面でも敗血症、急性血液浄化療法の臨床研究を行い、2021年に西田修先生の

ご指導もと医学博士を取得しました。

手術は予定された外傷であり、その外科的侵襲から生体を防御するための行為が「麻酔」です。麻酔には気道管理、呼吸・循環管理、鎮痛・鎮静管理といった医師としての基本的な技術・知識が凝集されており、我々は麻酔で培った経験をもとに重症患者に対する全身管理を行っています。院内最後の砦であるのにも関わらず普段は目立たない麻酔科ですが、これまでの管理では諦めるしかなかった症例を救命する、麻酔を軸とした全身管理の奥深さと面白さに共感した70名以上が入局してくれました。他職種・他診療科との連携を強化し、急性血液浄化・ECMOの研鑽を積み、新型コロナウイルス感染症のパンデミック期には、他施設で管理が出来ない超重症呼吸不全症例に対しVV-ECMOを中心とした集中治療を実践し、全国有数のECMO治療実績を有する施設となりました。

今回赴任した岡崎医療センターでは手術麻酔管理が業務の中心となり、年間3000件以上の麻酔管理を行います。医師働き方改革・タスクシフトの推進など麻酔科医を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、本学における診療・教育・研究に、なお一層奮励努力精進してまいります。

今後も「その時、いちばん動ける藤田学園」に向けて、後進の育成に努めていく所存です。これまで多くのご指導いただきました諸先輩方に、心より感謝いたします。今後とも何卒変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



医学部 消化器外科学講座 主任教授を拝命して

医学部 消化器外科学 講座教授

勝野 秀稔 (19回生)

このたび、2026年5月1日付で藤田医科大学 医学部 消化器外科学講座 主任教授を拝命し、ばんたね病院へ赴任いたしました。この場をお借りして、藤医会の先生方ならびに関係各位に謹んでご挨拶申し上げます。

私は1996年に本学を卒業後、丸田守人教授、前田耕太郎教授のもとで大腸外科医として研鑽を積み、「外科医とはメスを持った内科医である」という教えを胸に、診療・研究・教育に携わってまいりました。大学病院での研修後には東京都済生会中央病院、足利赤十字病院で外科診療を学び、その後大学院へ進学し、大腸癌患者の免疫動態に関する研究で学位を取得いたしました。

博士号取得後には、英国Edinburgh Western General HospitalおよびImperial College Londonへ留学する機会をいただきました。言語や文化の違いに戸惑いながらも、臨床と研究の両面で貴重な経験を積むことができ、現在の外科医人生の礎となっています。特に、欧米では大腸外科が悪性疾患のみならず、炎症性腸疾患、機能性疾患など幅広い領域を包括していることを学び、現在の診療理念にも大きな影響を受けました。

帰国後の2009年には、宇山一郎教授が全国に先駆けて導入されたda Vinci Surgical Systemによる本邦初の直腸癌ロボット支援手術を花井恒一教授とともに経験する機会に恵まれました。当時は自費診療の時代であり、症例数も限られていましたが、2018年の保険収載以降、ロボット支援手術は急速に普及し、現在では大腸癌に対する重要な低侵襲治療の一つとなっています。これまで多数のロボット支援手術に携わるとともに、全国の施設でプロクターとして手術指導にも従事してまいりました。また、クローン病に対するKono-S吻合や、便失禁に対する仙骨神経刺激療法にも積極的に取り組んでおります。

2020年4月からは守瀬善一教授が主宰する外科学講座に所属し、岡崎医療センター開院事業に携わりました。新型コロナウイルス感染症流行下での開院という困難な状況ではありましたが、西三河地域の先生方のご支援のもと、地域連携を構築しながら消化器外科

診療体制を整備してまいりました。2022年3月には臨床教授を拝命し、ロボット支援手術を含む低侵襲手術の普及や人材育成に取り組むとともに、2023年9月からは副院長として病院経営および手術部運営にも従事し、安全かつ効率的な手術室運営や医療体制整備に携わる機会をいただきました。診療のみならず、マネジメントの観点からも多くの学びを得た6年間であったと感じています。

ばんたね病院は、藤田学園の医学部創設とともに開設され、地域医療を支える本学の重要な基幹病院です。大正時代から地域医療・救済事業に尽力されてきた坂元種報徳会の理念を受け継ぎ、長年にわたり名古屋市西南部地域の医療を支えてきました。奇しくも、「藤田学園名古屋保健衛生大学ばんたね病院」の開設日は1971年10月1日、私は同年10月7日に生を受けており、このたびの赴任に不思議なご縁を感じております。今後は消化器外科学講座の主任教授として、消化器外科診療のさらなる発展に努めるとともに、若手外科医の育成、臨床研究の推進、地域医療への貢献に尽力してまいります。また、藤田医科大学の三病院それぞれの特色を生かした連携を深め、学園全体の発展にも寄与したいと考えております。

末筆ながら、これまでご指導・ご支援を賜りました諸先生方、同窓会の皆様に深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。





医学部皮膚科学ばんたね病院 (美容皮膚科、レーザー治療) 臨床教授を拝命して

藤田医科大学ばんたね病院 皮膚科学 教授

秋田 浩孝 (18回生)

この度、2026年5月1日付で藤田医科大学ばんたね病院皮膚科学臨床教授を拝命いたしました。就任にあたり、主任教授である杉浦一充教授、ばんたね病院院長の堀口明彦教授をはじめ、これまでご指導、ご支援を賜りました諸先生方、藤医会会員の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

私は名古屋市東区出身、私立東海高等学校を卒業し、1995年に藤田保健衛生大学(現、藤田医科大学)を卒業いたしました。同年5月、故 上田 宏教授が主宰される皮膚科学講座に仮入局し、研修医として藤田保健衛生大学病院に入職いたしました。研修医終了後、正式に皮膚科学講座に入局とともに大学院に進学し、ラテックスアレルギーの実態調査を中心とした皮膚アレルギー研究に取り組み、2001年に学位を取得いたしました。

現在私の専門分野であるレーザー治療・美容皮膚科との出会いは研修医1年目に遡ります。

第13回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会(栃木)において、当時本学会理事(のちの理事長)であった松永佳世子講師(現、皮膚科名誉教授)、梅村芳樹講師(当時医局長)とご一緒する機会をいただきました。そのご縁から同年に梅村医局長とともに京都市北病院形成外科(鈴木晴恵先生:現、鈴木形成外科 小児科)を訪問し、レーザー治療を見学したことが本分野に進む契機となりました。

その後、1997年4月から2001年5月まで、大学院での研究日などを活用し、週1回京都市北病院で研修および診療に携わりました。さらに研修先の先生方のご推薦により、2002年4月より2004年3月まで米国ボストンのWellman Laboratories for Photomedicine(現、Wellman Center for Photomedicine: Department of Dermatology, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School)に2年間Research Fellowとして研究(太田母斑に合併する眼球メラノーマに対するレーザー治療法開発)に従事する機会を得ました。

2004年の帰国後、藤田医科大学病院皮膚科にて皮膚科レーザー外来を開設し、2016年にはばんたね

病院において皮膚科レーザー外来を開設し診療・研究・教育に携わっております。

診療では保険診療による各種「あざ」の治療を中心に、自費診療による各種「シミ」のレーザー治療も行っております。色素レーザー、Qスイッチレーザー、光治療器(Intense Pulsed Light:IPL治療)、炭酸ガスレーザーなどを用い、患者さま一人ひとりに適した治療を提供しております。

とくに小児「あざ」治療に力を注いでおり、2歳までの治療完了を目標に、早期治療の重要性について啓発活動にも取り組んでおります。また乳児血管腫の診療では小児科との連携のもとレーザー治療に加えてプロプラノロール内服療法も実施していただいております。

研究・教育面においては専門領域学会に積極的に参加しております。日本皮膚科学会では美容皮膚科・レーザー指導専門医委員会の資格担当長を務め、日本臨床皮膚外科学会では理事長を拝命いたしました(2015年12月~2021年12月)。また、2024年8月には第42回日本美容皮膚科学会総会・学術大会の大会長を務めさせていただきました。留学にてお世話になった先生方4名に加え、藤医会の先生から藤田 潔先生(桶狭間病院藤田こころケアセンター)、石川清仁先生(ばんたね病院泌尿器科教授)にもご講演をいただき、台風の中ではありますが多くの皆様のご参加のもと盛況裡に終えることができました。

近年「直美」という言葉に象徴されるように、美容医療を取り巻く環境は大きく変化しております。しかし安全で質の高い医療を提供するためには、皮膚科学および関連領域における十分な研鑽が不可欠であると考えております。ばんたね病院ではこれまで岐阜大学、福井大学、秋田大学皮膚科などから国内留学・研修を受け入れてまいりました。これからも皮膚科学講座および藤田医科大学の発展に貢献していく所存です。

最後になりましたが、これまで支えてくださったすべての皆様に深く感謝申し上げます。ま今後も初心忘れることなく診療・研究・教育に一層精進してまいりますので、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。